

見どころ案内

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (3/9~4/4)

「草木染の世界」展

◇展示温室 (3/9~4/17)

ゼラニウム展

ハナモモ (バラ科)

中国原産。日本には弥生時代に渡来したと言われています。白色から濃紅色の花を咲かせます。白色八重花の“関白”が咲き始めました。

ユキワリイチゲ (キンポウゲ科)

「春の妖精」のひとつに数えられ、天気の良い日に花を開き、曇りの日には閉じています。花卉の色は白から淡紅紫色まであります。春の妖精もこれで見納めになります。

ゲンカイツツジ (ツツジ科)

中国地方、四国北部、九州北部に分布する落葉低木で、早春の葉の展開前に花を付けます。紅紫色のロート状の花を枝先に複数個つけるので、春先の花が少ない時期に華やかになります。

カラコエ (ベンケイソウ科)

マダガスカル原産の着生種ユニフローラなど貴重な野生種が咲いています。

ゼラニウム展

当園のゼラニウムコレクションを一同にご覧いただけます。華やかな園芸品種のみならず、国内でも貴重な「変わり葉ゼラニウム」は必見です！お見逃しなく！！

クリスマスローズ

(キンポウゲ科)

ベゴニア温室の南側花壇ではオリエンタリス系交雑種が見頃です。これから春に向けてバラエティーに富んだ花色で彩られます。

マンドレイク (ナス科)

別名マンドラゴラ。引き抜くと悲鳴を上げるという伝説で有名な薬用植物です。薄紫色の可憐な花を咲かせています。

ヒマラヤユキノシタ

(ユキノシタ科)

団扇や杓子の様な葉の間から長い花茎を伸ばして、その先に淡いピンクの花を密集して咲かせています。

イワヤツデ (ユキノシタ科)

タンチョウソウとも呼ばれます。春に根茎からヤツデやモミジを思わせる5~9裂に切れ込んだ葉を広げます。花は葉が展開すると同時に白い花をつけます。

ハクモクレン (モクレン科)

中国原産の落葉高木です。白い卵のような形の花が咲き始めました。

トサミズキ (マンサク科)

名前のとおり、高知を中心とした四国山地の石灰岩地に多く生育しています。つり鐘状の淡い黄色の花が、鈴なりに咲いています。

サンシュユ (ミズキ科)

中国原産。薬用植物として江戸時代に伝わりました。黄色い花や赤い実が美しく、庭木として全国に広がりました。別名春黄金花(はるこがねばな)。

寒緋桜 (バラ科)

早咲きの寒桜が終わりかけており、河津桜の隣で真紅の寒緋桜が咲き始めています。遅咲きのカンザクラも咲き始めており、いよいよ桜の季節の到来です。

